

～Okinawa to the world～沖縄を世界へ

宜野座村立宜野座中学校二年 仲地 彩葉

鮮やかな紅型をまとった踊り手が、琉球舞踊の「四つ竹」を踊り、華やかに始まる観光イベント「杜の賑い」。

私は出演者として、小学生のころから舞台上に上がっています。

杜の賑いは、昭和五十六年から始まり、観光客が減ってくる冬の観光の目玉として開催されています

観光イベントとしておこなわれているので、県外、海外からの観光客と触れ合うことが出来ます。そのため、沖縄の文化や芸能をたくさんの人に触れてもらえるとてもいい機会になっています。そして、沖縄だけでなく私にもいろいろな刺激を与えてくれるので踊っていてとても楽しいです。

また、総合演出である杜の賑いの中に、出演者として踊ったり、パフォーマンスができることを私は誇りに思っています。杜の賑いが終わって、お客さんをお見送りするときに、「上手だねえ。」「沖縄の舞踊はきれいでカッコイイね。」と、笑顔で握手を求められ、私もとても達成感と感動を共有する喜びを感じます。

杜の賑いは総勢七〇〇人で創り上げている舞台なので、練習も厳しく、普段の踊りの稽古と中学校の勉強、更に子供会活動やジュニアリーダー研修など、特に今年は大変な事が重なり、苦しい時もありましたが、観光客の拍手と笑顔に触れ出演できてよかったと思いました。

私は、杜の賑いの7年間の経験をとおして、考えたことがあります。それは、同世代の人にも琉球舞踊を見てもらい、体験してもらうことで沖縄のことをもっと好きになって、理解してもらいたいということです。そこで私は、イメージをふくらませてみました。それは、「琉球舞踊 Let's try!」という感じで、沢山の人に琉球舞踊を体験できる企画があったらいいなと思います。もちろん、インストラクターは私のように琉球舞踊を習っている沖縄の中学生です。この企画には沖縄の同世代の人にも、沖縄の文化に触れてほしいという思いがあります。

踊る曲は、「海のチンボラー」と「カチャーシー」です。二曲とも、楽しい歌でワクワクする曲です。

「海のチンボラー」は、沖縄の海で貝や魚を採る村人たちのお話を三線の音色にのせて踊る曲です。沖縄の海の豊かさや自然が伝わってくる歌詞を、ユーモアたっぷりの動作で表現しています。

「カチャーシー」は、喜びや楽しさを手で表現して踊ります。うれしいことがあった時は必ず最後にみんなで踊って、最高に場が盛り上がります。

私がインストラクターをするならば、もっと沖縄を観察し、沖縄の歴史にも触れ、沖縄

のことをもっと沢山知って伝えたいと思っています。

想像しただけでワクワクしてきました。やはり一緒に琉球舞踊を体験することで、沖縄の文化に触れ合え、「絆」ができます。そしてその「絆」が世界に広がっていくのです。

私達の世代が、琉球舞踊をとおして繋がっていけば、沖縄の未来をより明るくしていけると思います。

琉球舞踊は、沖縄が琉球王国であった歴史、人々の暮らし、恋や親子の愛、自然との関わり、信仰など、沖縄のすべてが表現されています。

私は、知れば知るほど踊れば踊るほど、琉球舞踊の奥深さに心が引かれます。

日本各地には、それぞれの地域で大切に受けつがれてきた文化芸能があります。自分たちの文化を大切にすることは、他の文化も尊重することにもつながると思います。

2020年には東京で、東京オリンピックが開かれます。オリンピックの開会式で沖縄の伝統芸能を披露して、北海道から沖縄まで文化の交流ができたらいいなと思います。それが、世界各地から集まったオリンピック選手や観客、メディアをとおして、世界中に沖縄を発信していくことにつながるからです。

沖縄という小さな島に、琉球舞踊というすばらしい伝統文化があるということを知った人たちが、実際に沖縄を訪れてくれることを期待したいです。

そして私は、将来自分から海外に行って、琉球舞踊を広めて、そこから沖縄に興味を持ってもらえるような舞踊家になりたいという夢を抱いています。

「Okinawa to the world」私達が沖縄を世界へ。